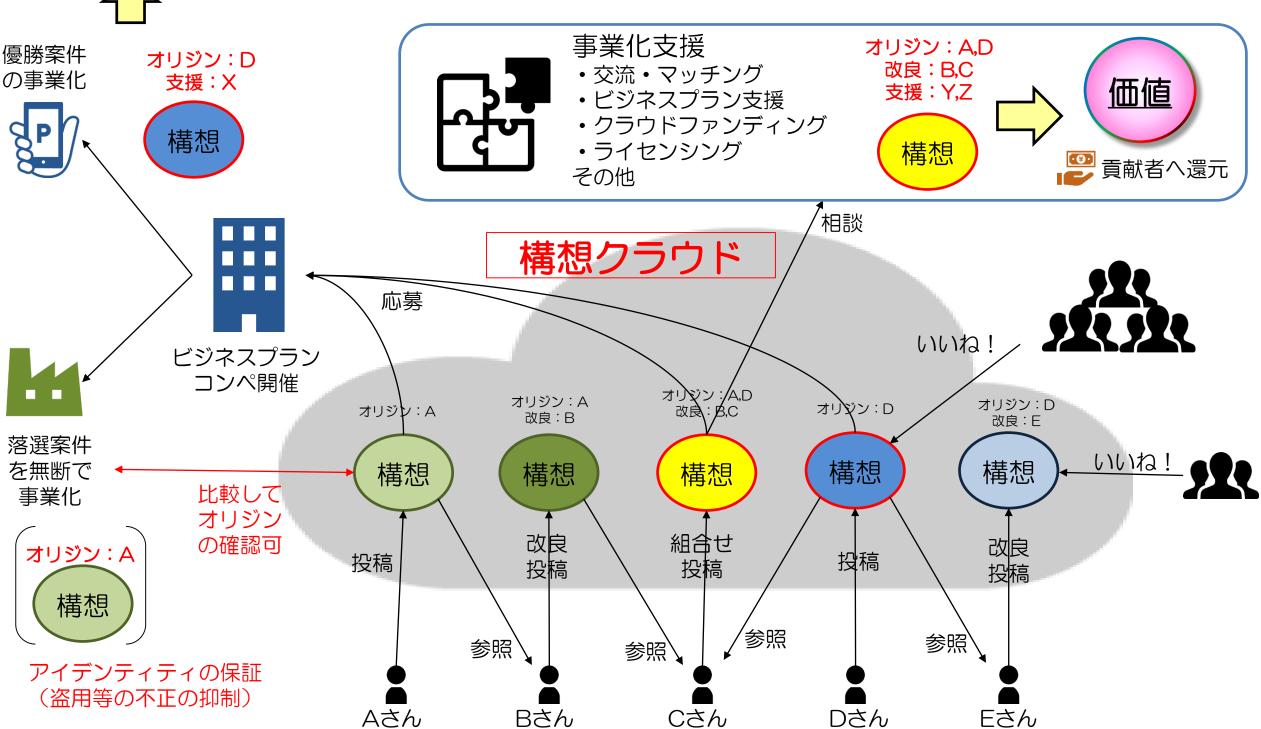
## 新知財システムを検討するための具体例(構想クラウドの例)

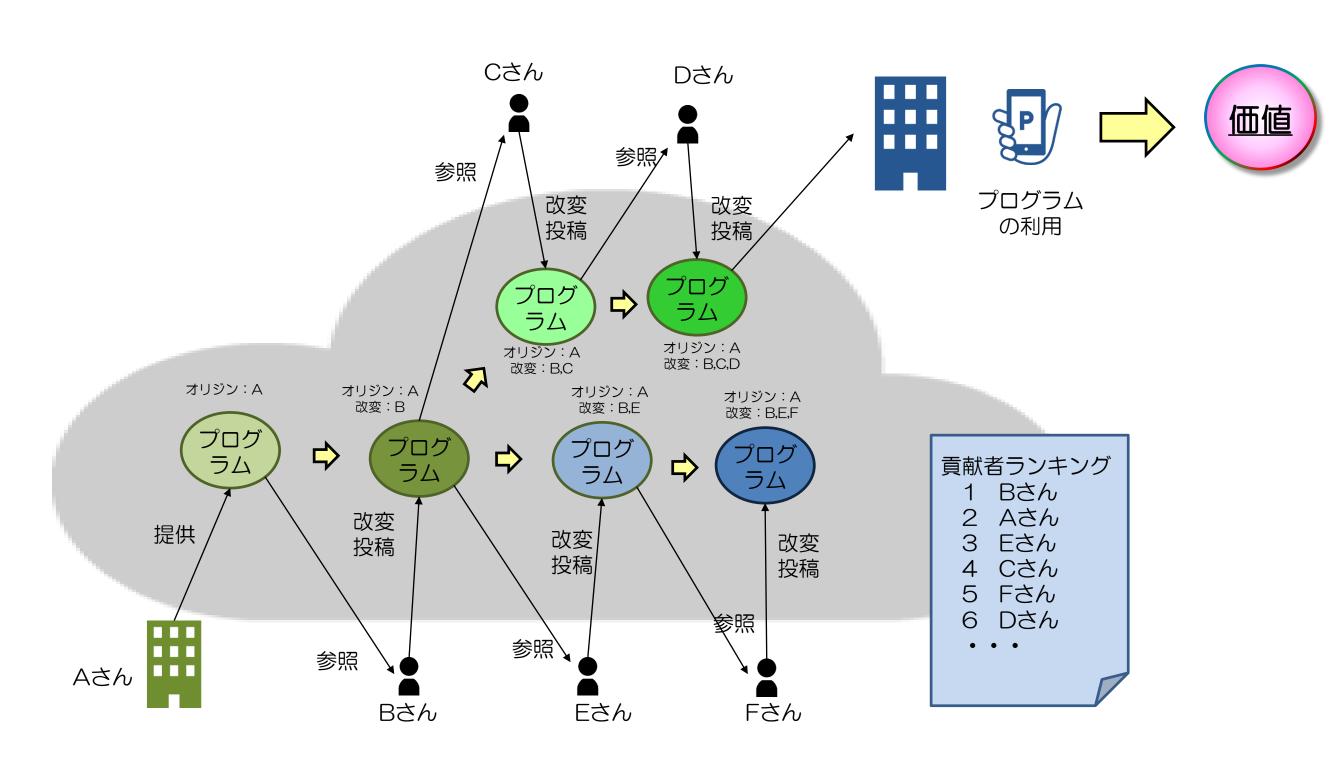


- 構想をクラウドへ預ける(参考:情報銀行、掲示板、ブログ、SNS) 「構想」は、夢やアイデア、ビジネスプラン、技術思想、著作物など、あらゆる可能性
- ・創作履歴(オリジン/参照・改良/支援)の管理 → アイデンティティの保証(参考:OSS、GitHub)
- ・ブロックチェーン等による管理 → タイムスタンプ、信頼性(参考:電子公証)
- 閲覧ログの管理(足跡)、「いいね!」を番号を付与して管理(first finder)(参考:SNS)
- ・公開/非公開、公開時期・範囲の管理(参考:SNS)
- ・利用条件の表明(自由利用可、一定の制約・条件) (参考: Creative Commons)
- ・ピアレビュー(参加者同士の評価)による全参加者の格付けと治安維持(参考: Uber、Airbnb)



## 新知財システムを検討するための具体例 (OSS(オープンソースソフトウエア)の例)

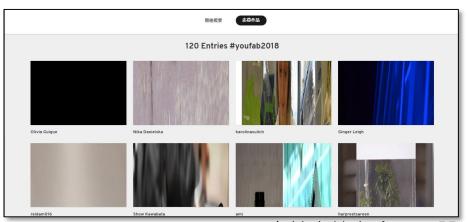
- ・ソースコードが無償で公開され、改変や再配布を行うことが誰に対しても許可さている。 但し、無条件ではなく、コピーレフト等の制限事項を定義したOSSライセンスあり。
- •OSSコミュニティを形成し、多くのボランティア開発者がインターネットを介して共同開発。
- ・創作履歴(オリジンや改変等の貢献をした者)が管理され、貢献者ランキングも公表。



- 「AWRDは、コンペティションやハッカソンを実施するための、オンライン審査プラットフォームです。 (中略) クリエイターの才能とプロジェクトが出会い、イノベーションが生まれる。そんな接続点となる ことを期待してAWRDはスタートします。」(株式会社ロフトワーク、プレスリリース18.04.20)
- アイデアや権利を応募者に残し、応募案件を全て公開し、新たなチャンスを広げる。



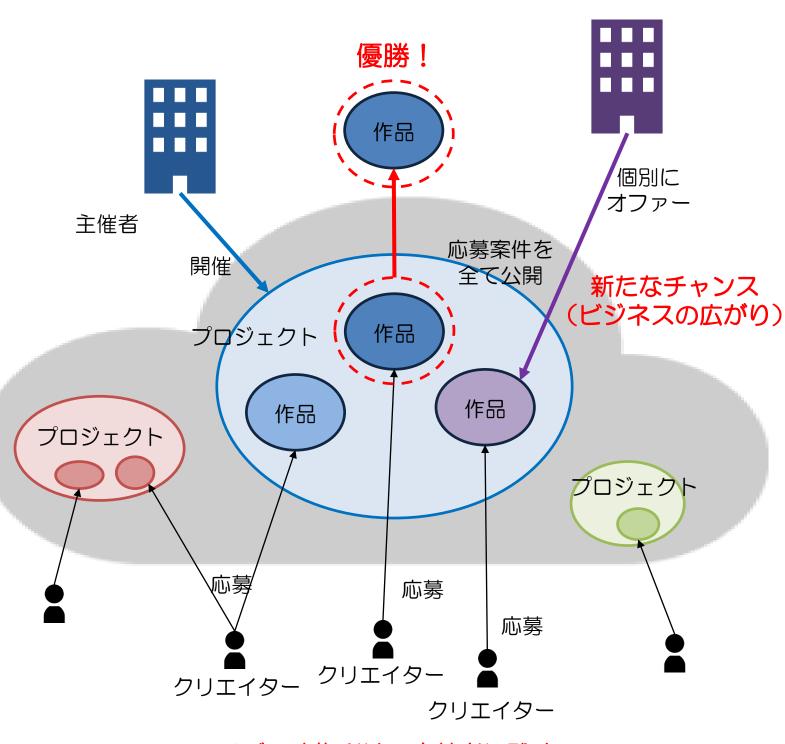
プロジェクトの例



応募案件を全て公開



応募案件の一例 (名前・タイムスタンプあり)



アイデアや権利は、応募者に残す ここに蓄積されることで、信用・ブランドにつながる